

1200年の時を超え、浸水被害に悩まされた 古都・長岡京エリアを守る



いろは呑龍トンネル
北幹線

大型ショッピングモール(H26開業)

浸水対策により地域の成長・発展を後押しする
「いろは呑龍(どんりゅう)トンネル」
(京都府京都市、向日市、長岡京市)



● before



● after



- 京都市、向日市、長岡京市にまたがる桂川右岸地域は、784年に長岡京がおかれたが、わずか10年で平安京へ遷都。度重なる浸水被害が理由の1つとされている。
- 平成以降も100戸を超える浸水被害がたびたび発生し、京都府では、平成7年度から「いろは呑龍トンネル」の整備を推進している。
- これまでの大雨で計177回、約102万m³(平成28年3月末時点)の雨水を貯留し、浸水被害の軽減に大きく貢献している。
- JR横断部アンダーパスの冠水による通行止め被害を軽減した。
- 雨水北幹線1号管渠の供用開始(H13)以降、雨水出水に対する安全度が向上し、新駅の開業とともに駅周辺での住宅・商業施設・サービス施設などの立地が進む。



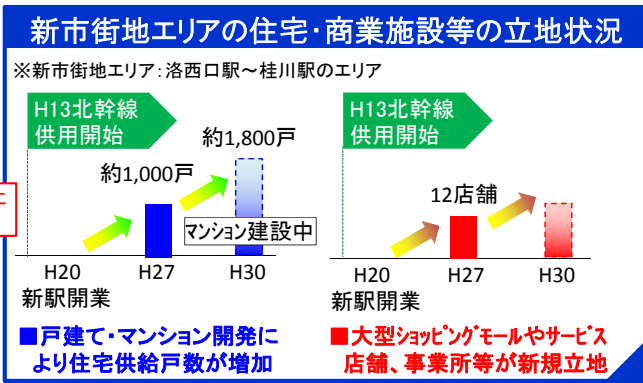
浸水被害の軽減

北幹線1号供用開始 → 2・3号供用開始

発生日	H2. 9.13	H11. 6.27	H22. 8.12	H25. 9.15	H26. 8.10	H27. 7.16
時間最大・総雨量	349.5 70.5	125.0 67.5	85.0 56.0	275.0 41.0	123.0 44.0	239.0 19.5
浸水被害戸数	806	477	7	106	1	0
呑龍トンネル貯留率			83%	100%	100%	74%

■ 時間最大(mm/h) ■ 総雨量(mm)
■ 浸水被害(戸数)

北幹線供用開始後は大幅に被害軽減



スツック効果

雨水南幹線管渠の整備

- 平成28年2月に、全長約4km、内径3.5mの南幹線シールドトンネルの掘進を開始しました。10月31日現在、洛西浄化センター内の発進立坑から1.7km地点の付近を地下約25mの深さで掘り進んでいます。
- 南幹線が完成すると、対策量は現在の約2倍となり、対象地域が長岡京市まで拡大するとともに、平成25年台風18号と同等の大雨による浸水被害が解消されます。
- 平成32年度の暫定供用開始、平成35年度の完成を目指します。

